# １　はじめに

## 未来を創る人　― Society5.0 を見据えて ―

「未来を創る人」とはどんな資質・能力を持つ人か。私達は，常にそのことを問いかけながら研究を進めてきました。

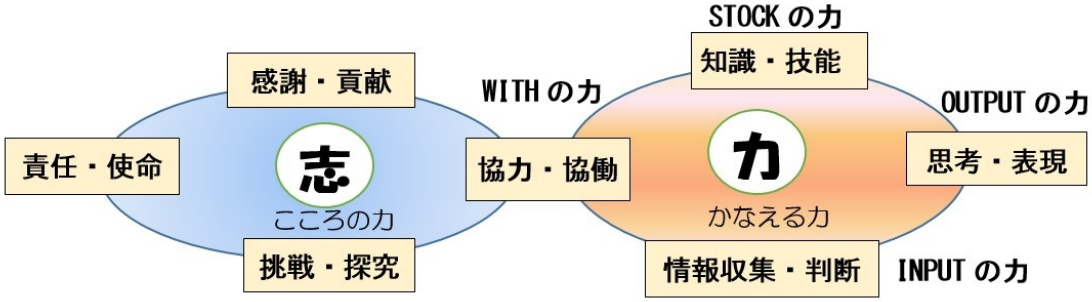
その中で，私達は，最終的に，「２つの力を持つ人」をイメージするようになりました。

ひとつは，**「志」という「こころの力」**です。

課題を発見しても，アイデアを持っていても，それを口にするだけの人がいます。そして，人や世の中のせいにするだけで，何もしようとしない人。その人に欠けているのは，「志」です。

郷土の偉人　宇都宮黙霖

広南には，郷土の誇る宇都宮黙霖という偉人がいます。不幸な生い立ちの中，教育の機会も奪われた黙霖は 15 歳になるまで文字を知りませんでした。22 歳の時には，病から耳と口が不自由になるという試練に出合います。けれども，黙霖は，「新しい時代への変革に貢献する」という大志を抱きました。吉田松陰とも激しい書簡のやり取りをすることにより，その後の松蔭の思想に多大な影響を与えたとされています。そして後世に，明治維新に貢献した人物のひとりとして名を残しました。黙霖は，世の中の「不」に出合った時は，その「不」を覆すためにどうしたらよいか，自分で課題を見付け，それに向かって高い「志」を持って行動する生き方をしています。




では，その「志」は，どのように育つのでしょうか。

人はもともと「挑戦したい・探究したい」という資質・能力を持って生まれ，その資質・能力で「夢を抱く」ようになります。そして，人とのかかわりの中で「人と協力・協働したい」という資質・能力が育つことで互いに「夢を語る」ようになり，やがて社会の中で自分を自覚することで，「責任・使命を果たしたい」，また「感謝・貢献したい」という資質・能力が育っていきます。**これら４つの資質・能力は，人間に生きる価値を与えてくれるもの**です。そして，新学習指導要領に示された資質・能力の３つの柱のうち，「学びに向かう力・人間性等」に対応するものです。「自分の生きる価値」を学ぶことこそ，学びの中で１番大切な学びです。これらの価値を実感する経験を心の羅針盤に記録していく経験を，発達段階に応じて積み重ねていく。そのことを通して，**「人としてどう生きるか」という「志」（こころの力）**は，育っていくのです。

もうひとつの力は**「叶える力」**です。**「叶える力」とは，「不」を覆すアイデアを実行して問題を解決する能力**です。

問題解決能力を高めるには，まず INPUT 能力（情報収集と的確な判断を行う能力），OUTPUT 能力（思考し表現する力），STOCK 能力（有用な知識・技能を活用できる形で蓄積する力），さらに WITH 能力（人と協力・協働する力），この４つの資質・能力をそれぞれ高める教育活動の充実が重要と考えます。新学習指導要領で示された資質・能力の３つの柱のうち，「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」がこれらに対応するものです。

ところで，０から新しい価値を創り出す能力は特別の人間だけが持つ能力でしょうか。そうではないことを赤ん坊は教えてくれます。すべての赤ん坊が０からその世の中で生きるためのすべを「情報収集・判断」「思考・表現」という資質・能力を発揮して「知識・技能」という形で見事に獲得し，積み重ねていくではありませんか。しかも，その力はヘレン・ケラーなどの障害をもつ人々が教えてくれているように，たとえ視覚・聴覚という情報収集能力を奪われても，それを補うように高まるように見えます。人間は誰もが，赤ん坊の時からその力のもととなる資質・能力を潜在的にすでに備えているのです。

では，何が問題かと言えば，今の子供達が現代の教育制度の中で，効率的に「知識・技能」を与えられ続ける一方で，主体的にそれらの資質・能力を発揮しながら問題解決を行う機会が著しく奪われてきたことです。

**「叶える力」は，他人が与えることはできないのです。**生きていく中で，問題にぶち当たって，自ら課題を見付け，探究的に問題解決へ向かう経験を積み重ねる中でのみ鍛えられ獲得していく力です。「知識・技能」も自ら引き出す経験を通してはじめて力となるのです。新学習指導要領で「何ができるようになるか」とともに「どのように学ぶか」が重要視されているのはそのためです。主体的・探究的な問題解決へ向かう経験となるような学びの工夫が求められています。

本学園では，これまで**「挑戦問題」**からはじまる課題発見・解決学習の単元（ＰＲＯＪＥＣＴ学習）開発を通して，学びがい（学びの価値・学びの質）を深め，児童生徒の「主体的な学び」を育てる指導の工夫について研究を進めてきました。その中で，単元だけでなく時には教科や学校を跳び越えながら自在に学びをつなぐ**「貫きカリキュラム」**，また，「資質・能力の評価」の研究については，児童生徒との価値の共有こそが重要と考え，Ａ（目指す目標）のさらにひとつ上のＳ（資質・能力の価値が最も発揮された理想の状態）を具体的に示す**「Ｓルーブリック」**を開発し研究を進める中で一定の成果を上げてきました。

さて，私達は，児童生徒が未来に生きる上で必要な資質・能力を探究してきましたが，私達の暮らす社会は，すでに AI やロボットの共存する Society5.0 という革命的な社会の変貌をすでに遂げ始めています。この社会の変貌は，一方で，人類に大きな希望を与えると同時に，子供達に，本離れ・ネット依存といった深刻な問題を引き起こしています。以上のことから，子供達には，予測のつかない未来を生き抜いていく力を育んでいくことが求められています。

そこで，私達は，令和元年度には，Society5.0 を見据えたカリキュラムデザインをテーマに，平成 30 年に中国地方に広く深い傷跡を残した西日本豪雨災害の「不」の経験を未来に活かすために，今後 30 年以内に起きる確率が 70～80％と言われる南海トラフ大地震を想定した避難プログラムや，９年間を見通した ICT 能力の育成を図るカリキュラムを作成しました。また，深刻さを益々増してくるであろう「ネット中毒」に対する生徒指導面での課題を重点項目として取り組みました。

令和２年度の教育資料集は，本学園の基本的な考え方に，昨年度の研究テーマであった「言葉磨き」と「ICT 教育」についての実践レポートおよび「貫きカリキュラム」等，令和２年度に向けて本学園の研究推進の方向性をまとめたものです。

今までの研究の積み上げを活かし，広南学園の取組を充実させるとともに，さらに発展させることで，「未来を創る」資質・能力をもった児童生徒を育てていきましょう。